

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(2) 会津坂下町人権教育実践事例

- ① 人権教育推進のための実践例
- ② 会津坂下町人権教育講演会
- ③ 会津坂下町基礎学力向上推進会議
授業研究会・人権教育講話会
- ④ 会津坂下町人権教育研究発表会



① 人権教育推進のための実践例

人権教育推進のための環境づくり

会津坂下町として取組んでいる「人権教育推進のための環境づくり」として一覧にまとめた。幼小中単独で実践している内容もあるが、共通実践事項として、“一貫性”“共通性”“継続性”をもって町全体として取組むことで、自分も他の人も大切に、安心して過ごせる園・学校を作ることができる考える。

No.	活 動 名	主 な 内 容 等	幼	小	中
1	人権の木	保護者にわが子のいいところを書いてもらい、人権の木に花を咲かせる活動。			
3	わらべうた遊び	地域に伝わる「わらべうた遊び」を行う活動。			
4	ホワイトボードを活用した予定表の掲示	文字が読めなくても、絵などを表し、誰でも予定が分かるようにする活動。			
5	米ぬか雑巾で床みがき	保護者手作りにより米ぬか雑巾で床を磨き、みんなで園舎をきれいしようとする活動。			
6	お誕生日会	毎月1回の誕生日会を行い、生まれてきたことへの感謝の機会とする活動。			
7	祖父母感謝会	祖父母を招待し、触れ合うことで感謝を表す活動。			
8	ありがとう郵便	「ありがとう」の気持ちを友達に届け、思いやりや感謝の気持ちを養う活動。			
9	人権コーナーの設置	人権についての知識や理解を深めるための環境整備。			
10	集団登校（地区児童会）	上級生が下級生の世話をしながら、登校したり、地区の行事に参加したりする活動。			
11	弁護士のよるいじめ防止講話	福島県弁護士会から派遣された4名の弁護士による「いじめ防止講話」の実施（中学1年全クラス）。			
12	人権擁護委員によるいじめ防止教室	町人権擁護委員による「いじめ防止教室」の実施（全校集会時）。			
13	人権擁護委員による人権教室	町人権擁護委員による「自分の良さ」に気づかせる授業の実施。			
14	いじめ防止についての教職員研修	福島県生徒指導アドバイザーによる「いじめ防止」教職員研修の実施。			
15	生き物とのふれあい（飼育活動）	生き物と触れ合うことを通して、生命の尊さについて考えさせる活動。			
16	伝統野菜の収穫や文化芸能体験	地域の一員として、地域に伝わる伝統野菜や文化芸能に触れる活動。			
17	縦割り班活動（異学年交流）	異学年交流を通して、互いのよさについて知ることができる活動。			
18	地域活動（クリーン作戦、資源回収）	地域の一員として、地域の清掃をしたり、資源回収の手伝いをしたりする活動。			
19	あいさつ運動	登園・登校時に、あいさつをし、「あいさつ」を広めていく活動			
20	異校種間連携活動（幼小・幼中・小中・幼高・小高・中高）	一つの学園構想のもと、異校種間の連携をより一層重視してきた活動。			
21	P T A による奉仕作業	幼稚園・小中学校のP T Aによる草刈り等の奉仕活動。			
22	地域の登下校の見守り	地区見守り隊による園児・児童・生徒の登下校を見守る活動			

23	地域を知る活動の実施	園児・児童・生徒が地域を知るための活動を積極的に教育課程に組み込み実施。			
24	人権の花の栽培活動	「育てよう 思いやりの心」をキャッチフレーズに、人権の花運動を実施。			
25	会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業の実践	自分も他の人も大切にする保育・授業を実践するために「5つのK」(か 活躍させる)(き 共感・共有させる)(く 比べさせる)(け 決定させる)(こ 声をださせる)を大事にした保育・授業を実践。			

実践事例 1	①人権の木
幼	保護者にわが子のいいところを書いてもらい、人権の木に花を咲かせる活動

幼	小	中
---	---	---



「いつもお手伝いをしてくれます」「自分の使ったおもちゃはきちんと片づけています。」など、保護者がわが子のよいところを見つけ、人権の木(いいところみつけた)にきれいな花をたくさん咲かせることができた。この活動により、保護者がわが子のよいところを見つけるよい機会となったのははじめ、園児も自分のよりところを知るきっかけとなった。

実践事例 2	①縦割り班活動(異学年交流)
幼・小	異学年交流を通して、互いのよさについて知ることができる活動

幼	小	中
---	---	---



同一園、同一校内における異学年交流。通園時に年長児が年少児の手を引いて歩いたり、上級生と下級生が触れ合うことができる活動を行ったりすることにより、互いのよさを知ることにつながった。

実践事例 3	㊫異校種間連携活動
幼・小・中	一つの学園構想のもと、異校種間の連携をより一層重視してきた活動

幼	小	中
---	---	---



小学生が幼稚園に出向き、絵本の読み聞かせを行ったり、中学生が幼稚園児との交流を行ったりする異校種間連携を、子どもの育ちと学びをつなぐ「一つの学園構想」のもとで行ってきた。異校種間連携を活発に行うことで、互いに思いやりの気持ちや優しい気持ちをもって接することができ、自他を大切にする人権意識が高まった。

実践事例 4	㊫会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業の実践
幼・小・中	自分も他の人も大切にする保育・授業を実践するために「5つのK」（か 活躍させる）（き 共感・共有させる）（く 比べさせる）（け 決定させる）（こ 声をださせる）を大事にした保育・授業を実践

みんなの前で発表。
『声を出させ、活躍させます』



自分の考えと友達のことを
『比べさせます』



ペア学習で友だちと交流し、
友だちの考えに
『共感させます』



みんなで相談し
『決定させます』



会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業を町内幼稚園、小中学校の全教員が行っている。その中でも特に、教師のコーディネーターとして、「5つのK」を大事にした保育・授業を行い、互いのよさや可能性を認め合う活動を通して、自分もそして他の人も大切にする保育・授業を実践している。

② 平成30年度会津坂下町人権教育講演会

- 1 日時：平成30年8月6日（月）13：30～15：30
- 2 会場：道の駅「あいづ 湯川・会津坂下」交流促進施設 会議室
- 3 講師：東京学芸大学総合教育科学系・教育学講座 准教授 林 尚示 様
（文部科学省 学校教育における人権教育調査研究協力者会議委員）
- 4 演題：人権教育といじめをおこさない町づくり
- 5 講演会の様子



6 感想

- 人権について改めて考えるよい機会になり、これからできること、見直すことなど参考になることが多くありました。
- 人権教育について、知識的理解が深まった上で、他の先生方とグループディスカッションを行い、他校種の悩みや実践について協議することができました。グループ毎の発表でも、たくさんのアイディアが出され、2学期に早速実践したいと思いました。
- 普段の生徒たちとの関わりが全て人権教育につながっていると感じました。先生方と協力しながら、自分でできることを少しずつ行っていけたらと思います。
- 今日の講演の中で、人権について学ぶことができました。人権教育の目標の中の「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」ができるようになることが大切であることを学びました。これからも子どもたちの人権を大切にしながら、子どもの人権感覚を育てていきたいと思います。
- 人権教育についてよく考えるととてもよい機会となりました。普段子どもたちと生活する上で、何気なく行ってきたことの中にも、人権教育に関わることがたくさんあるということを実感することができました。また、グループディスカッションで様々なグループの先生の見解をお聞きし、2学期から使えるようなプログラムをたくさん学ぶことができました。普段、人権という言葉あまり子どもたちの前で口に出すことはありませんが、一つ一つの指導が人権にかかわっていることをよく理解できました。

③ 平成30年度会津坂下町基礎学力向上推進会議授業研究会・人権教育講話会

- 1 日時 : 平成30年9月4日(火) 13:20～16:40
- 2 会場 : 会津坂下町立坂下中学校
- 3 公開授業: 人権教育(学級活動) 他4教科公開
- 4 人権教育公開授業の内容: 学級活動「性の多様性について考えよう」
- 5 人権教育指導助言者: 福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様
福島県教育庁会津教育事務所指導主事 渡部真喜子 様
- 6 授業、分科会の様子



【 学級活動の様子 】



【 分科会の様子 】

7 人権教育講話会

- 演題: 授業における人権教育の在り方
- 講師: 福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様
- 講話会の様子



④ 平成30年度会津坂下町人権教育研究発表会

- 1 日時 : 平成30年11月30日(金) 13:00～16:40
- 2 会場 : 会津坂下町立坂下南幼稚園、会津坂下町立坂下南小学校
- 3 公開授業: 幼小連携・生活科、算数科、道徳科
- 4 指導助言者: 福島県教育庁義務教育課主任指導主事 横山 修 様
福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様
福島県教育庁会津教育事務所指導主事 渡部真喜子 様
- 5 分科会の様子



【 幼小連携・生活科 】



【 道徳科 】



【 算数科 】

6 授業の感想

＜幼小連携・生活科＞

- 幼稚園の子どもたちが、とても意欲的に小学生のデモンストレーションを見ていました。小学生がどう教えてあげればいいのか考えながら教えていて自分の縄跳びと交換したり、言葉と動きを教えたりと一生懸命でした。交流も何度目かだったようで、「ぼく、この子の名前分かるよ」と言っていたのも印象的でした。
- 先生方の環境設定で、幼小相互の子どもたちのやる気の高まり、人との関わり、思いやりなど多くの成長が見られたひとときでした。特別なことをしているのではなく、普段行っていることでの連携をすることにより、大きな成果が見られると感じました。

- 日頃から幼小連携を重ねているので、子どもたちも知っている“お兄さん”“お姉さん”として楽しく活動できていた。小学生に憧れをもつ気持ちや小さい子に対するかわいがり、面倒を見る姿も見られてよかった。
- 「心がぽかぽか」「うれしかった」「緊張がなくなった」「上手だった」「すごかった」など、互いを認め合う言葉多く聞かれ、あたたかい気持ちになった。
- 今回、人権教育公開保育「幼小連携」を参観して信頼関係も運動を通して、築くのは理想的だと感じました。私たちが同じ年代の頃は、そのような交流がなかったように記憶しているので、小学生になる前に頼る、頼られるという機会があることは、子どもたちにとって安心につながり、これからの小学校生活の大きな力になるのではないかと考えています。小学生が優しく手を差し述べてサポートする姿や名残惜しそうにお別れをする園児の様子が大変微笑ましく、年長児とはいえ、まだまだ未熟なんだと痛感しました。私も保護者として、いつでも受け入れて甘えられる、そんな広く大きな器で接して見守っていただけたらと考えさせられました。
- 公開保育の会場は、いつもとは異なる緊張感が漂っていました。子どもたちは大勢の人に憶することなく、縄跳びを楽しんでいます。ちょっぴり先輩顔の小学性と園児の笑顔が印象的でした。孫は、2年生の従兄に教えてもらったことが嬉しかったらしく、自宅でも縄跳びの練習をするようになりました。
- 丁度、年長と2年生に子どもがいるので、参観できてよかったです。地域に子どもが少ないこともあり、家庭では、兄妹以外の他の子と接する機会がほとんどないので、幼稚園、学校で他学年との交流活動があるのは、とても良いと思います。他の行事でも中学生や会農生との活動のことを喜んで話をしてくれます。

<道徳科>

- 本当の友達とは何かを振り返ること、深く考えさせることは、この時期の子どもたちにとって大切なことだと思いました。アンケートの利用、焦点を絞った課題提示、発表が苦手な児童を考慮した「書く活動」など、大変工夫された展開だったと思います。
- 道徳の授業を人権の観点から学ぶことができ大変勉強になりました。道徳が人権の根っこのところであり、その重要性を再認識しました。
- 子どもたちの実態をしっかり把握して授業が組まれていた。自分の考えを見え格にさせた上で、グループの話し合いが設定されていた。また、話し合いでは、相手の話を真剣に聞こうとする態度が見られ素晴らしかった。道徳の授業においても、会津坂下町で取り組んでいる「学びのスタイル」、特に、教師のコーディネートが大切であり、子どもたちの考えを引き出したり、議論させたりするにはどうしたらよいかを学ぶことができた。
- 先生の指示で、スーと班になり、友達の発表後には、拍手を自然と送りなど、学習の動きや学習上のルール・マナーができているように感じました。友達に対する考えや感じ方は多種多様あると思います。その中で、3人の登場人物の考えに絞って、どの人の考えに共感するかネームを貼ることで具体化されていました。決定したものの、班で話し合ううちに、心が揺らぐ児童もいたと思います。そこにもっとライトアップできたらとも思いました。
- 友達のことを真剣に考えている登場人物3人の気持ちを考えることで、本当の友情について深く考えることができたように思います。最後の自分を振り返る際には、ほとんどの子どもたちが友達のことを思う大切さや互いに注意し、よりよくなっていくことの大切さに気付いたようでした。

- 参観者が多数で、子どもたちも普段通りとはいかず、緊張していたようです。あの中でリラックスして、いろいろな意見を出すのは、なかなか難しかったようです。そうした中でも、自分の考えをきちんとノートに書いてがんばっていました。
- 短い時間の中で子どもたちに考えさせ、自分の意見を話してもらう内容でよかったと思います。

<算数科>

- 先生は、5 Kを大切に授業を行っていたが、この5 Kが人権尊重にそのままつながっていることが分かった。
- 子どもたちが生き生きと話し、活動していてとてもいい感じでした。
- 互いを認め合いながら、自分の考えを進んで発表し、意欲的に学習する子どもたちの姿から、日頃からの学級経営のすばらしさを感じました。人権教育は改めて教えることなく、日々の学習や生活から子どもたちが身に付けていくものであり、その上に知識として、L G B Tの理解等について学んでいくのではないかと考えます。
- アクティブなとてもよい授業でした。アクティブになればなるほど、どこにも入れないおとなしい子どもがいる。そこにも配慮ある授業でした。
- 授業の中で、人権に関わるいろいろな配慮や工夫が見られた。どの教科や教育活動においても人権を意識した指導、取組が大切だと感じた。

7 講演会

- 演題：L G B Tを理解するために知っておきたいこと
- 講師：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 教授 梅宮 れいか 様
- 講演会の様子



8 講演会の感想

- L G B Tについて知識がなかったので、とてもよい機会となった。
- 全ての子どもが幸せに過ごせるよう、私たちができることを子どもたちに伝えていきたいと思う。
- 左ききの人と同じ割合ということに驚いた。L G B Tについて、ほとんど関心がなかったが、教師として無関心ではいけないことに気づいた。L G B Tについて学ぶよい機会となり有意義な時間だった。
- 専門的知識に裏付けされた具体的な助言、質問に対する回答があり、明確になった部分がたくさんあり、とてもよかった。
- 教室に二人はいるかもしれない性的マイノリティの生徒のために、今何ができるかについて丁寧に教えていただいた。
- 自分自身、L G B Tに関する知識が不足していることを痛感した。苦しんでいる生徒を影ながら見守り、支えられる Ally になれるように努めたい。
- L G B Tについて大変勉強になった。トランスジェンダーの人たちが苦しんでいること。全ての人が幸せになること。教育ができること、教育だからできること。自分の役割を見つめていきたい。
- L G B Tに対する社会の理解や動き、L G B Tの人々の悩みや苦しみにについて知ることができ、大変参考になった。これからの人権教育を進めていく上で、さけては通れないことだと思うので、これからもさらに研修を積んでいきたい。
- L G B Tについて、本当に何も知らなかったもので、この講演会で詳しく教えていただけて、本当によかったです。L G B Tの人達がすごく辛い思いをして生きていることがよく分かって、とても切ない気持ちになりました。もしも、そういう子が身近にいたら、ぜひ味方になってあげたいと思います。そっと見守ってあげたいと思います。
- 全ての人が幸せになる権利という考え方が大切であると思った。
- カラダの性、ココロの性、スキになる性があり、このことを知ることができたことがスタート地点なのだと感じた。味方になるための知識を増やしていければと思う。
- とても勉強になりました。振り返ると、今までの教え子の中にもL G B Tの子がいたのかもしれないと思います。まずは知ることから始められてとても良かったです。
- 話の内容、話し方、映像に私の目と心がくぎづけになりました。心が揺さぶられました。人間は老若男女だけで構成されていないんですね。ありがとうございました。
- なかなかショッキングな内容もありましたが、聞けてよかった。すぐには実現できない部分はあがるが、全ての人が幸せな社会を目指すことは当たり前だと思います。私たちはそれを目指すべきです。
- カラダとココロは本当に複雑だと思いました。実際に学級にいたとしたら、戸惑うのでは…と思ってしまいます。まずは「味方」の一言を大切に、クラスの一人として接していきたいです。誰もが幸せになる権利があることを忘れずにいきたいです。
- 以前、性同一性障害の児童をもったことがあるが、全く理解できていなかったもので、味方になれなかった。もっと早くL G B Tのことについて理解できていればよかったと思う。だからこそ、今日の講演は大変勉強になった。
- L G B Tについての知識がなく、人を見る目がなかったな…と反省させられました。「全ての人が幸せになる権利がある」と言うことが胸に強く響きました。今日学んだことをこれからの生活、仕事、人生に活かして素敵な社会づくりに役立っていける存在になりたいと思いました。